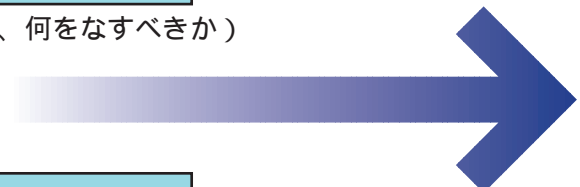


計画理念

市民と自然とを結びつける「窓口」となる公園をめざす

地球環境問題の深刻化
(市民は何を知り、何をなすべきか)

身近な自然の減少
(自然を考える場の不足)



市民と自然とを結び
「窓口」の必要性

計画地周辺の良好な自然環境
到津遊園の果たしてきた役割

- 「窓口」の機能
- ・自然と親しみ、遊ぶ
 - ・動物や自然のことを知り、学ぶ
 - ・郷土の自然へと市民をいざなう
 - ・野生動物をまもり、はぐくむ



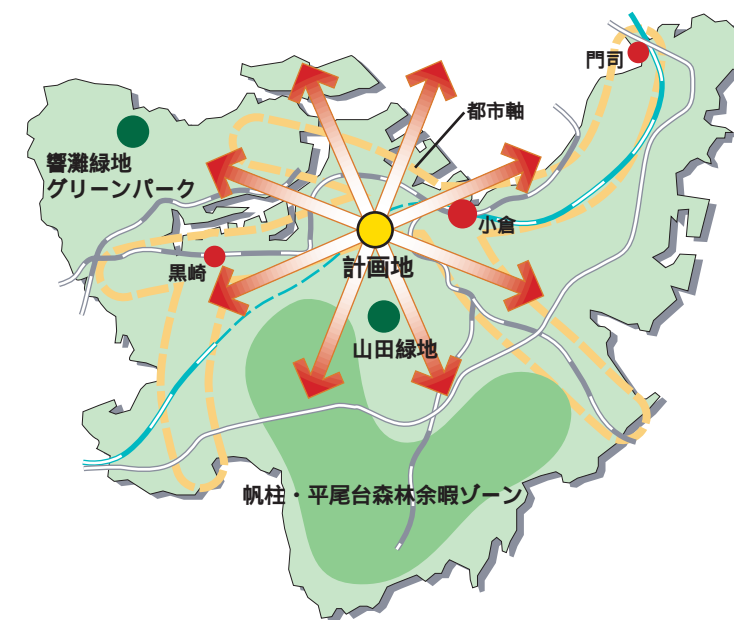
中央公園の自然を積極的に活用し、身近な自然を体感するための「窓口」となる

世界の動物と自然環境への窓口

- ・世界の興味深い野生の世界を覗き見る「窓口」
- ・地球環境の多様性や動物の生態に気づき、知るための「窓口」

北九州の身近な自然への窓口

- ・郷土の自然への感心を深める「窓口」
- ・市内の自然環境(森、川、海、干潟など)へと市民をいざなう「窓口」
- ・市内の関連施設(響灘、山田緑地、自然史博物館など)へと市民をいざなう「窓口」



市域の様々な自然環境や関連施設へと市民をいざなう「窓口」となる